

総合資源エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会  
省エネルギー小委員会 ガス石油温水機器判断基準  
ワーキンググループ（第2回）  
議事要旨

1. 日時：2019年10月30日（水）13:00～14:00

2. 場所：経済産業省 本館17階 第1特別会議室

3. 出席者

委員：鎌田座長、飯野委員、植田委員、大國委員、齋藤委員、花村委員

オブザーバー：足立オブザーバー（日本ガス石油機器工業会）、  
平野オブザーバー（日本ガス石油機器工業会）、  
本荘オブザーバー（日本ガス協会）

事務局：経済産業省 江澤省エネルギー課長、  
井出省エネルギー課課長補佐、  
杉浦省エネルギー課係長、  
大木生活製品課課長補佐

4. 議題：

- (1) 高効率温水機器の普及について
- (2) 温水暖房機器の取り扱い等について（案）
- (3) 温水暖房機器の測定方法について（案）
- (4) ガス温水機器及び石油温水機器の区分について（案）

5. 議事要旨：

○議題（1）高効率温水機器の普及について

委員の主な意見は以下のとおり。

- 長期エネルギー需給見通しにおける2030年度の導入・普及見通しに向けて、潜熱回収型温水機器は順調に普及しているか。
- ハイブリッド給湯器というより高効率の温水機器が登場してきているので扱いを検討してほしい。

○議題（２）温水暖房機器の取り扱い等について（案）  
温水暖房機器の取り扱い等について、了承された。  
委員の主な意見は以下のとおり。

- ガス温水暖房機器と比較すると石油温水暖房機器では潜熱回収型温水機器の出荷割合が低いのではないか。

○議題（３）温水暖房機器の測定方法について（案）  
温水暖房機器の測定方法について、了承された。

○議題（４）ガス温水機器及び石油温水機器の区分について（案）  
ガス温水機器及び石油温水機器の区分について、了承された。  
委員の主な意見は以下のとおり。

- 区分は現行基準よりもシンプルで消費者から見て分かりやすいものとなった。
- 住宅セグメントによって潜熱回収型温水機器の導入のしやすさは異なると考えられる。

以上